Los Angeles Times

角永の作品は移行の過程に焦点を当てている

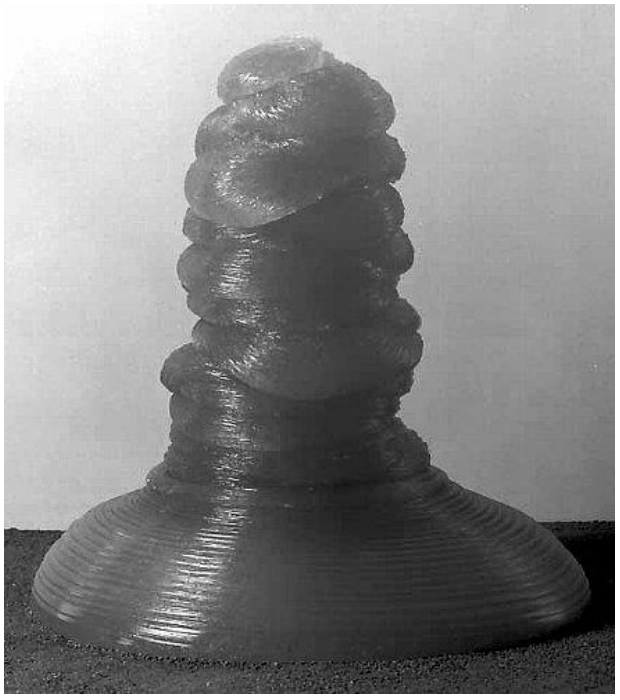
2001 年 7 月 16 日　（月曜日）

Art Review　文・ホリーマイヤーズ、

アートワークの本体を説明する際に、「プロセス指向」という用語には、考えられる幅広い意味があります。 最悪の場合、それはアーティストが首尾一貫した最終製品を作成する責任から免除するレーベルです。 ただし、せいぜい、それは、ファイナリティの概念を重視せず、同時に最終的なオブジェクトのステータスを使用して芸術プロセスと自然の循環的順序の熟考を促進する、アート制作への全体論的なアプローチを説明します。

現在、日系アメリカ人文化・コミュニティー センターで展示されている日本人アーティスト角永和夫の作品は、最高の意味でプロセス指向です。 竹、木、紙、ガラスなどの要素のある素材から細心の注意を払って作成された彫刻は、その建設に関わる瞑想的な労働力に注意を喚起するだけでなく、自然の有機的なパターンも反映しています。 あるグループの作品では、角永は丸太を木の内側の板に彫り込み、内部の調和に移動するかのようにねじれて曲がります。これらのオブジェクトの手仕事自体は立派ですが、それらの形はアーティストによって考案されたようではなく、単に他のシェルから解放されたようです。展覧会のほとんどの作品は、同じような自然な表現感を持っています

角永が使用する素材は、人間によって実用的な目的に向けられた最初のものでした。 角永は、彼らの変化可能性と彼らが物理的な状態の間で経験する移行に注意を呼びかけます。 1 つの作品は、木から木炭への移行を具体化した、一端で黒く燃やされた約 12 本の 3 フィートの木製の棒で構成されています。 別の例では、木の幹が非常に薄いシートにスライスされ、同じログの一部であるかのように重なり合って、木材から紙への移行を巧妙にカプセル化しています。 別のグループは、本の一部のように、一端がきついブロックに圧縮されているが、他の半分が閉じ込められている領域に抵抗するかのように、もう一方の端が大きく膨らんで大きな枕状の塊になる大きな紙のスタックを含みます。 提出。　角永の最新作は、溶融して数フィートの高さのらせん状の山に注がれた緑色のガラスで構成されており、プレスの資料によると、自動化プロセスは完了するまでに数日、完全に冷却して完全に固まるまでに最大 4 か月かかります。 上から見ると、展示されている 4 つの作品は、別の世界の石筍のように見えます。それぞれ構造は似ていますが、形は独特です。 1 つはまるで陶器の車輪の形をしているように、ほぼ完全に丸く、巣のようなものです。もう 1 つは反抗的に非対称で、太鼓腹の仏像にそれは漠然と壺腹の仏像に似ています。それぞれに、透明なライスヌードルのボウルに似た非常に薄いガラスのストランドの山がのせられています。 明らかに堅固で動かないものの、作品はまだ液体のように見えます。近くのビデオに描かれている溶融ガラスの催眠の流れは、最終的な製品では、止まるのではなく、単に動いているように見えます。



For “Glass No. 4E,”
ガラスを溶かして、螺旋状の山に流し込みました。

悲しいことに、彫刻が設置されているギャラリーは、作品の微妙な優雅さを伝えるには不十分な場所です。
ひどく汚された灰色のカーペットが敷き詰められた、ぎこちない形の窓のない空間です。 しかし、個々の作品には、強力で瞑想的な存在感があります。それは、作品の制作過程への角永の厳粛な、さらには精神的な投資の明らかな結果であり、鑑賞者を調和のとれた同一性の状態に導きます。

*　*　*　*　*

日系アメリカ人 文化コミュニティセンター
の ジョージ J.ドイザキ ギャラリー、
244 S. San Pedro, Los Angeles, (213) 628-2725.
7 月 29 日まで。月曜日 定休